

## 漢字は“消えない言葉”

ところが、漢字は言葉のように、現れるや否や消えてしまうことがあります。つまり、覚えるまで待っていてくれるものです。だから、言葉の覚えられない重度の脳障害児、精薄児でも覚えることができるわけです。

でも、こういうことは、そういう事実は何回も出合うことによって、あとから考え出した理由であって、そういう事実に出合うことがなかったら、とても考え出すことはできなかつたと思います。だから、そういう事実に出合ったことのない読者諸氏には、なかなか信ずることができないと思います。信じられないのが、むしろ当然だと思えます。

だから、そういう事実を自分で体験するまで、私の言うことを信じないで下さって結構です。ただ、石井にだまされたと思って、だまされてもともとだという気持で、実践してみてもよろしい。そうすれば、私と同じように、きっとこの事実には驚嘆されるだろうと思えます。

実は、この事実の発見も、ドーマン博士は私と同じようにしているのです。私とドーマン博士とは、遠く太平洋を距てて全く相会うこともなく、

同じ事実に出会い、同じ理由を考え出していたのです。それは、それまで誰からも気づかれなかつた事実が発見される運命にあった、そういう時期に達していたのだ、というような思いが致します。

漢字はその典型的なものですが、文字というものは、もともと“目で見える言葉”です。耳で聞く言葉は、発せられるやいなや消えてしまうので、昔は、大切な言葉を残すためには、語り部のような存在に頼らざるを得ませんでした。“消えない言葉”は、人類の願望だったので

す。その願望は、“目で見える言葉”文字の発明によって果たされました。百万年に及ぶ長い人類の歴史の中で、やっと達せられた願望だけに、それは“耳で聞く言葉”よりも当然高度のものであり、従って学習に困難なものであるに決まっている、と思ひ込んだのも道理だと思ひます。